



# 地区社協の活動と取り組みを紹介します

## 安居地区

### 食事サービスの工夫



安居地区では高齢者が29%を超え、一人暮らし世帯、高齢者のみの世帯が増加しています。

食事サービスは毎回、高齢者の方の楽しみの一つになっています。

民生委員は、対象者に電話やチラシで連絡して配食しています。お弁当作りはボランティアグループ「えぶろん安居」が担当しています。えぶろん安居の発足には、担い手不足がありました。そこで立ち上がったのが料理好きの地元の有志です。平成15年に発足し、結成14年になり、地区社協の行事でもなくてはならない存在です。



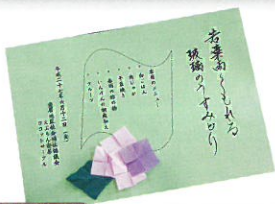
毎回、色どりや味付け、食感などバランスの良いお弁当作りを心掛けている一方、召上がった事がないようなメニューも取り入れていきます。

また、お弁当にかけるお品書きにも工夫が凝らしてあります。それを作っているのが、ボランティアグループ「ココットサークル」です。お品書きには俳句や季節の折り紙が飾られています。

これからは、誰がやっても同じように出来るようにレシピの管理を行って、長く続くボランティアグループにしていきたいです。

(安居地区社会福祉協議会)

事務局 高村 弘江



## 旭地区

### 楽しいボランティア教室



今回から市内49地区社協の活動を順番に自己紹介していただきます。トップバッターを飾るのは、安居地区と旭地区です。

旭地区社協では、地域の子どもたちに、相手を思いやり、助け合う心を育ててほしいという願いをこめて、毎年11月頃に旭小学校の4年生を対象に、「楽しいボランティア教室」を開催しています。

この教室では、手話体験や車いす・アイマスク体験、ミニ講演会などを地区社協が中心となって企画しています。毎年、目の不自由な方や耳の不自由な方をゲスト講師としてお招きし、子どもたちが障がいのある方との交流を楽しみながら、自分たち

にどんなお手伝いが出来るか、身をもって学べるような企画を考えています。

子どもたちからは、「目が見えないのに料理を作れると聞いてびっくりした」、「車いすに乗って歩道を移動してみても、少しの段差でも移動が大変だと分かった。困っている人を見かけたら声をかけてあげたい」など、毎年素直な感想が寄せられます。

旭地区は、ボランティア教室だけでなく、敬老会で小学4年生が身体の不自由な方の案内役をしたり、中学生が地区のまつりへの協力や児童館でのボランティア活動を行ったりと、子どもたちが地域で福祉活動や行事に参加する機会が多い地区です。この「楽しいボランティア教室」も、子どもたちが地域や福祉とつながる最初の入口として、20年以上続いています。旭地区社協では、これからも子どもたちに身体の不自由な方や地域との関わりを肌で経験してもらい、思いやりを持って成長してもらえよう、サポートしていきたいと思えます。

(旭地区社会福祉協議会)

事務局 一同

